

# 西要寺だより

第121号 令和8年3月14日

今号の「西要寺だより」では、僧侶となるための第一歩である「得度（とくど）」についてのお話と、昨年11月の歴史講座のご報告をしたいと思います。

## ●「得度」について

実は現在、三月六日から十六日までの十一日間の日程で、住職の長男が「得度習礼（とくどしゅらい）」に行っております。無事に全日程を修了すれば、僧侶としての資格をいただいて帰ってくる予定です。平素より温かく見守ってくださる門信徒の皆様、この場を借りてご報告申し上げます。

「お寺に生まれれば、簡単に僧侶になれる」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、現実決してそのような甘いものではありません。そこで今回は、現在長男が挑んでおり、私自身もかつて経験した「得度習礼」とはどういうものかについてお伝えしたいと思います。



## ・僧侶への第一歩：得度習礼という「真剣勝負」の11日間

僧侶としての資格をいただくための「得度習礼（とくどしゅらい）」。その実態は、厳格な規律の中に身を置く、いわゆる「修行」の場なのです。

## ・門を叩く前から始まる「暗唱」の壁

浄土真宗本願寺派では、得度を受けられるのは十五歳以上と定められています。習礼の門を叩く前には、まず厳しいハードルが待ち構えています。一泊二日の事前講習会を経て行われる試験では、仏教・真宗の歴史と教え、宗教法人法、さらには勤行（ごんぎょう）の実践があります。この試験では、一つでも不合格科目があると習礼に進むことはできません。特にお経や「御文章」の拝読などの課題では、一字一句を身体に染み込ませる準備が欠かせません。



そして試験を突破し、いよいよ習礼入所という段にな

って、男性は髪を1ミリ以下に剃り上げ、不退転の決意をもって本番へと挑みます。

### ・身体に刻まれる痛みと、厳格な規律

習礼の一日は、早朝5時30分の起床から始まります。すぐに清掃、そしてお勤め（勤行）と続き、朝食は8時過ぎ。午前中は教えを学び、午後はお経や作法の指導、グループワークと、分刻みの予定が夜までびっしりです。



私が経験した約40年前は、講義中はずっと正座でした。後半になると、座るだけで足の股が筋肉痛で激しく痛みました。指導員の方々も非常に厳しく、今なら「パワハラ」と言われるような激しい叱咤激励も日常茶飯事でした。前住職の時代（約70年前）は食事の時でさえ正座だっていますから、時代と共に形は変われど、その張り詰めた空気感は受け継がれています。

### ・外部からの遮断と、野球のエピソード

ここで少し、私たちの親子の話を。私（住職）も長男も、大の野球好きです。長男は、今回の得度習礼の期間中にWBC（世界ベースボールクラシック）が開催されると知って、観戦できないことを非常に残念がっていました。

そうなんです。習礼の期間中は、スマートフォンは没収されます。習礼に集中するため、必要でないものは一切持ち込みも使用も禁止となります。そのため、世間でのニュースが一切入ってこない、まさに「浦島太郎」状態になるのです。私自身も、野球の話を息子とすることができず、少し寂しい思いをしております。

### ・共に歩む仲間、そして広がる門戸

こうした厳しい環境の中には、私の頃から女性の習礼生もおられました。現在ではさらに女性の姿が多くなっており、性別を問わず多くの方が僧侶への道を志されているのは、大変心強いことです。

こうした分刻みの日課に加え、夜も課題に追われます。全てをクリアするには睡眠時間を削るしかなく、精神的・肉体的にも非常にハードな11日間となります。

しかし、そのような厳しい状況を共にした仲間の間には、特別な絆が芽生え

ました。特に同年代の仲間とは、同じ苦勞を共にしたという強い連帯感で結ばれ、習礼後も長く手紙のやり取りが続いたほどです。今まさに奮闘中の長男も、きっと同じようにかけがえのない絆を結んでいることでしょう。

#### ・いよいよ本山へ。得度は「通過点」に過ぎない

こうして過酷な日課と課題を乗り越え、習礼の最終日には本山（西本願寺）へ赴き、いよいよ

「得度式」を迎えます。その前日には男性のみ

「剃髪（ていはつ）」が行われ、カミソリで頭を剃り上げます。そして次の日、

入浴を済ませて身を清めた後、得度式に臨み、ここでようやく僧侶としての資格を授かるのです。

しかし、それはあくまで「第一歩」に過ぎません。得度したからといって、すぐに「住職」になれるわけではないのです。

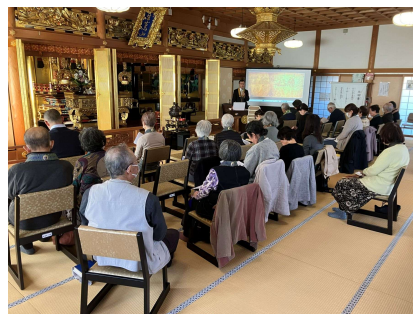
間もなく、カミソリで剃り上げた頭で、ひとまわり成長したたくましい姿を見せてくれることと思いますが、長男にとっても、僧侶としての自覚を持ち、自らを律し続ける研鑽の日々は、ここからが本番です。

その先の歩みについては、次号にてお伝えしたいと思います。



#### ●歴史講座のご報告

昨年11月22日、本願寺史料研究所上級研究員の岡村喜史先生をお招きし、「蓮如上人のご生涯」と題した歴史講座を開催いたしました。今回は、新たに導入した大型スクリーンを初めて使用し、先生が用意してくださった貴重な史料や図影を鮮明な映像で投影しながらお話しいただきました。



本願寺を再興し「中興の祖」と仰がれる蓮如上人。なかなかわかりづらい仏さまの教えを、お手紙形式の「御文章（ごぶんしょう）」として平易に説き、民衆一人ひとりに届けたその情熱的な歩みを、映像を通してより身近に感じることができました。また、現在の大阪城がある場所に、後に大坂本願寺となる坊舎を建立し、そこから「大坂」という地名が始まったというエピソードなど、私たちが暮らす土地の歴史についても深く知る貴重な機会となりました。最新の設備のおかげで、一つひとつの知識がより鮮明に心に刻まれる講座となりました。

また、今年も11月22日に歴史講座を開催いたします。講題は「豊臣氏と本願寺（仮）」を予定しております。誰もが知る歴史の表舞台で、本願寺がどのような役割を果たしたのか。これまで講座に参加されたことがない皆様も、この機会にぜひお気軽にご参加ください。新しいスクリーンが映し出す歴史の世界を、共に楽しみに待ちたいと思います。

◎西要寺行事予定◎

【定例法座】

3月22日（日）午後2時より

講師：西要寺住職

場所：西要寺会館

【定例法座】

4月22日（水）午後2時より

講題：「ひかりといのち きわみなき」

講師：星野 親行師

（本願寺派布教使、行信教校講師、豊中・西法寺住職）

場所：西要寺会館

ホームページ（[saiyouji.com](http://saiyouji.com)）



または さいようじ **西要寺** と検索ください。

浄土真宗本願寺派 さいようじ **西要寺**

**661-0024 尼崎市三反田町1-7-27**

**TEL 06-6429-8241**